

教育目標	○深く考えて行動する子(めあてをもち、自ら学ぶ子) ○思いやりのある子(心優しく、助け合う子) ○健康で明るい子(命の大切さがわかる、たくましい子)
めざす学校像	○子供の学ぶ意欲と喜びのあふれる学校 ○いじめのない、子供が安心して通える学校 ○子供と地域社会を結ぶ学校
めざす教師像	○学びと体力向上の喜びを与える教師 ○現状把握を的確に行い子供の心に寄り添う教師 ○はじめある指導を適切に行う教師 ○誠意をもって外部対応できる教師

努力指標は4段階でご記入ください。

努力指標・成果指標の数値は4段階評価です。

領域	中期目標	短期目標	具体的方策	努力指標(中間)	努力指標(最終)	成果指標(中間)	成果指標(最終)	分析コメント	改善策
知育徳育	確かな学力の育成	基礎基本の定着	習熟度指導・個別指導の充実、ICT機器の積極的活用、学習習熟度を高めるための家庭学習の計画的な提示	4	4	4	4	<ul style="list-style-type: none"> 習熟度に応じた指導や、問題量を調整し、個別に合わせた学習課題を設けた。 宿題でどんなことをして、何を保護者にお願いをしているのかを詳しく伝えている。 休み時間を利用して、個別で指導をしている。 学年会を通して、教科担任をしている教科についての各クラス児童の様子などを1年間通して、共有している。児童の努力やつまづきを把握し、授業展開の工夫をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習時間や場の設定が必要であり、時間的な余裕を必要とする。 学習の定着が不安な児童に対し、ICTを使った反復学習にさらに取り組めるようにしていく。 自分の考えをもち、友だちに伝え、児童同士の教え合う場面を意図的に設定する。
		読解力の向上に基づく言語能力の育成	計画的な読書活動、教員による読み聞かせや一人読書と本紹介、言語能力育成を視点にした日常的な授業改善	4	4	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 教室に本を置く活動や、他の教科で扱う関連図書を展示したりして、日常的な授業改善に努めた。 朝読書や図書の授業で、必ず一人で黙読する時間を設けている。 調べ学習では、自分で調べたことを文章にまとめる学習の中で、各自の書く力を伸ばしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 読み聞かせ、ブックトーク(国語科で伝記を紹介し合う活動を行った)などを行い、様々な内容の本との出会いを促す。 読書する児童とそうでない児童の差が大きいので、朝読書や読書旬間などの取り組みを推進しながら、読書時間の確保や活動の取り組みを充実させていく。
	豊かな人間性の確立	はじめある学校生活	コミュニティ・スクールとして、地域の人材やボランティア、教材を活用した学習(毎学期)、体験的学習を取り入れた授業実践	4	4	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 担任、専科、生活指導部と情報を共有し学校で一貫した指導ができるようにしている。 学習規律については、粘り強く、丁寧に、何度も繰り返し、できるようになるまで、その指導の理由を告げつつ、指導を続けた。 教員の目が届かないところで、決まりを守る意識が低い。 学年会で児童の様子や各クラス・授業での気付きなどを共有している。その中で学習規律や「九小の約束」についても確認し、どの教員でも同じ指導をするようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援教室の教員や、SC、SSWなどの連携をさらに深めていく。 決まりを守っている児童をほめたり、周りをみて注意や声掛けができる児童を増やす。 「(特に)きまりを意識して守る週間」など、児童が自らがきまりを守る意識を高められるような取り組みをする。 指導内容の定着が難しい(計画通りに理解を進めていくことが難しい)児童もいるので、くり返し指導や学習支援に取り組みしていく。
		思いやりと感謝の心の育成	コミュニティ・スクールとして、地域の人材やボランティア、教材を活用した学習(毎学期)、体験的学習を取り入れた授業実践	4	4	4	4	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育コーディネーターの支援を受け、児童理解のための研修を放課後に行ったり、校内の若手研修会に積極的に参加し、児童理解に努めた。 道徳の価値項目を単に教科書を通して指導するだけではなく、実際の自分事として、クラス全体で問い返しをし、より深く理解ができるよう授業の向上を図った。 「九小タイム」では、最高学年として下級生に思いやりをもって接することができたが、一方で、高学年に向けての意識をもっている児童が少ない実態もあった。 	<ul style="list-style-type: none"> 3学期からは、九小タイムは5年生が計画・進行を行っていく。児童が最高学年への意識を高められるように指導するとともに、実施後の振り返り活動を充実させていきたい。 児童が分かる道徳授業から、行動や意識が変わる道徳の授業となるよう、教材と実生活、自分事という3つの効果的な関連ができるよう、日々の授業力向上に努めていく。
		音楽・芸術活動の充実	児童理解のための教員研修、考え、議論する道徳授業の充実、縦割り班活動、「九小タイム」の充実		4		4	<ul style="list-style-type: none"> 外部講師をお招きし、手あそびや、わらべうたなど、日本の伝統文化を活かした活動に取り組んだ。 作品を作るだけでなく、互いに見合う鑑賞の時間を十分に設け、友達の様を見付け合う活動を推進した。 興味をもった工芸品について調べ、リーフレットにしてまとめた。その作品を教室の後ろに掲示し、いつでも鑑賞できるようにした。 系統的に音楽集會を行い、全校で歌ったり、全校で音楽に親しむ機会を設けることができた。 展覧会ではスローガンの通り一人一人の良さを発揮させることができた。また、異学年との交流の中で表現の幅を広げることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 音楽集會の課題曲などを丁寧に練習し、本番に備えることができるようにする。 情操教育に関する取り組みの継続をしつつ、さらに地域の方とも連携を広げながら、豊かな教育活動ができるようにしていく。
健全育成	食の教育の充実	音楽集會の充実、学級における音楽活動(毎月の歌)、図工作品の展示(展覧会)、日本の伝統文化を活かした活動	4	4	4	4	<ul style="list-style-type: none"> ソラマメや、トウモロコシの皮や鞘をむく活動を通じて、身近な国分寺の野菜について理解を広げ、残さず食べよとの意識向上に努めた。 給食室を探検し、そこで働く人たちとの交流を通じて、多くの人たちの愛情や努力に支えられて給食ができていくという認識の定着を図った。 給食の減らしや残しが減った。児童の食べる量が多くなった。栄養士が教室に話をしにくるなど、児童と交流ができていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 給食調理員、栄養教諭との接点をより多くするようにし、配膳台の受け渡し場面などでも何がおいしかったのかなどを伝える機会を設ける。 栄養士や調理員の思いや考えを聴く機会を設けていく。その思いや考えを踏まえながら、食への感謝を高めていきたい。 残菜を減らすための声かけや給食委員会の取組を充実させ、効果的な活動を目指す。 	
	体力増進に向けた活動の充実	体験的な食育の実践、栄養士・調理員との交流、「もくもくタイム」	4	4	4	4	<ul style="list-style-type: none"> 学級での遊び係を中心に、定期的に外遊びの企画を行い、実行している姿が見られる。 教員が外遊びに加わることで、普段外遊びに後ろ向きな児童も、積極的に外に出て遊ぶようになった。 日常的な活動において、縄跳びを取り入れ、短縄週間には、欠かさずに縄跳びに取り組むようにした。また、学校で発行した縄跳びカードを使って、目的をもって活動し、外遊びの充実を努めた。 体育の時間では、運動量を確保することができている。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、教員の外遊び実施と声かけを行っていく。 体育において、簡潔で的確な声掛けや指示を心がけながら、日々の授業に取り組む、児童の活動時間の確保と運動量の向上に努めていく。 	
	児童の危機意識の向上	運動量の確保を目指す体育学習、「九小ギネス」～大縄跳び、学級での休み時間の取組、外遊びの推進	4	4	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 毎月の避難訓練、安全指導朝会では、発達段階を考慮、事前指導、事後指導に力点を置き、どのような危機に対して、どのような対応をするといいのかを繰り返し指導した。 毎日の朝の会、帰りの会において、喫煙の事故や事件について取り上げ、交通安全や、危機回避についての指導を繰り返した。 廊下の歩き方、教室での適切な過ごし方や遊び方が分かっているが、ルールを守れない児童もまだ一部いる。また、登下校時に道を広がって歩く児童も見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 予告なしの避難訓練を増やして実施する。 代表委員を中心とした廊下歩行改善の取り組みをさらに推進させていく。 担任からの一方的な指導だけでなく、児童と共に振り返る場面も設定し、児童の危機管理能力の向上を図っていく。 	
地域連携	保護者・携地域との連	体験的な学習の充実	地域との連携を図る避難訓練、登下校訓練、定期的安全指導・朝会・安全点検、危機回避能力の育成	4	4	4	4	<ul style="list-style-type: none"> 九ちゃん農園での種まきや収穫、姿見の池や恋ヶ窪村分水の見学で講師の話を聞き、実際に見学したことで、自分たちの住んでいる地域への関心を高めることができた。 教室で学んだことを社会科見学等で再確認することができ、さらに理解を深めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 学年の学習全体を見直し、どんなことが地域人材とかかわることができるかを考える時間を設ける。 これまでの活動を継続しながら、児童にとってより主体的に効果的な活動を吟味し、連携を取り続けていく。
		教育活動の公開や情報発信	地域との連携を図る避難訓練、登下校訓練、定期的安全指導・朝会・安全点検、危機回避能力の育成	4	4	4	4	<ul style="list-style-type: none"> ブログや学級だより、学年での学びポケットでの発信、学校だよりなどでの発信など、機会を逃さずに、わかりやすく情報を保護者に伝えた。 	<ul style="list-style-type: none"> 各学級が発行する情報をお互いが見あい、それぞれの情報発信に取り入れることができるようにする。